

コアシンポジウム 2

「機能的消化管疾患～最新の診断と治療～ 【さらなる進歩を目指して】」

主司会 二神 生爾（日本医科大学武蔵小杉病院消化器内科）

副司会 田中 史生（大阪公立大学大学院医学研究科消化器内科学）

機能的消化管疾患は食道運動障害、機能的胸やけ、嘔気障害、機能的ディスぺプシア、過敏性腸症候群、機能的便秘・下痢、機能的腹部膨満など消化管の全領域を対象とした疾患群である。Rome IV 基準の改訂から7年が経過し、消化管粘膜の微細炎症や透過性亢進、脳-腸-腸内細菌相関などの病態生理が徐々に明らかになりつつある。また新たなモダリティを用いた機能評価・診断の試みや、治療においても着実な進歩がみられているが、まだまだ多くの課題が残されている。病態、診断、治療等についての基礎、臨床研究に関する演題を幅広く募集し、この領域のさらなる進歩に繋がるセッションとしたい。